第37回 あらかわ俳壇

投句数	950句（一般の部 882句／小中学生の部 68句）
投句者数	192人（一般の部162人／小中学生の部30人）
兼題	鳥曇、遅日、桐の花、当季雑詠
選者	佐々木忠利 氏（荒川区俳句連盟会長）
期間	令和7年4月1日から6月30日

一般の部	特選	好きなだけ動く遅日のグラウンド	横浜市・竹澤聡さん
	選評	春の遅い日々が野外で活動する自由を描いています。「穏やかな日差しの下、人々が時間を気にせず楽しむ様子が映されており、そのゆったりしたリズムが魅力的です。「遅日」と言う季語が、季節の穏やかさを効果的に表現しています。	
	入選	躑躅や割れ目につぼむ苜蓿	横浜市・小澤峯子さん
		鐘の音や燈すが如き桐の花	須崎市・野中泰風さん
		公園の蛇口の乾く遅日かな	江戸川区・羽住博之さん
		蕉翁に見せたや五月の千住橋	西東京市・節仙さん
		対話には論破は要らぬ鳥曇	船橋市・丸山優龍さん
	佳作	暮遅しまだ帰らずの二人の子	世田谷区・石川昇さん
		囀りや水子地蔵の耳ふたつ	生駒市・小田原久美子さん
		我慢せず吾を生き切る草青む	荒川区・川口政治さん
		子のゐない児童公園鳥曇	さいたま市・木村隆夫さん
		父の日も忘れないでと母は云ひ	荒川区・鈴木真理子さん
		客船は海霧に戻され佃島	草加市・西川由野さん
		ドラゴンや突き破りゆく鳥曇	須崎市・野中泰風さん
		女にはをんなの都合桐の花	荒川区・糺ノ森柊さん
		鳥籠のインコ脱走鳥曇	伊丹市・噂野アンドゥーさん
		築山の仄かな赤み遅日かな	龍ヶ崎市・恋瀬川三緒さん

小中学生の部	特選	あじさいが町中に色をもってくる	第四峡田小学校4年・岸勇陽さん
	選評	鮮やかな紫陽花の色が町全体に季節感を運んでくる様子を生き生きと描いています。「色をもってくる」という表現は、単なる視覚効果以上に、町中に命を吹き込むような動きを感じさせます。季節の移ろいを象徴する美しい表現です。	
	入選	百点の連続は無理鳥ぐもり	一燈園小学校5年・太田慈さん
		夏の月名前も忘れて歩き出す	荒川区立第一中学校3年・龍奈さん
		雰囲気を衣更えでかえようよ	国府台女子学院小学部4年・横山佳保さん
		とりぐもり学力テストをうけに行く	尾久西小学校3年・みかんさん
		夏の草こうべをたれて雨乞を	第四峡田小学校4年・吉田茉由さん
	佳作	太陽がふりそそいでいる日曜日	第二峡田小学校4年・上田羽南さん
		雨上がり雨粒光るきりの花	第九峡田小学校5年・桃佳さん
		夕暮れの風吹く空に遅日あり	大門小学校6年・小林優奈さん
		はるになりさくらもさくよとりもなく	尾久西小学校3年・笹渕颯人さん
		梅雨の月心うるおす黄金色	千駄木小学校4年・森田美友さん
		花吹雪水玉模様カーペット	国府台女子学院小学部4年・横山佳保さん
		夏の日でとける体とはずむ息	大門小学校6年・心結さん
		かんらんしゃすかいさいくるたのしいな	冨貴島小学校1年・山川蒼一郎さん

第38回 あらかわ俳壇

投句数	964句（一般の部896句/小中学生の部68句）
投句者数	179人（一般の部131人/小中学生48人）
兼題	合歓の花、夏の雨、野分、当季雑詠
選者	対馬康子氏（現代俳句協会副会長）
期間	令和7年7月1日から9月30日

一般の部	特選	瞳という小さな宇宙水の秋	茅ヶ崎市・宮永武彦さん
	選評	「瞳＝宇宙」という古典的比喩に「水の秋」の静謐さが奥行きを与えて美しい一句。澄んだ季節が瞳の奥まで沁み込み、外界を映す目がそのまま深い内宇宙へと開いていく。内と外が静かに重なり、秋らしい余韻を残す。	
	入選	飛び込みのするり飲み込む夏の水	荒川区・ふるやしげるさん
		合歓の花頁を捲る指の影	松戸市・弥栄弐庫さん
		風渡る蓮の葉の海ぽんっと花	荒川区・櫻井祥香さん
		見上げれば雲の明るき緑雨かな	杉並区・満月さん
		夏の雨ハモニカの音駆け上がり	江戸川区・相場恵理子さん
	佳作	遠花火気の遠くなるほどの嘘	荒川区・川口政治さん
		蝉鳴くや裏鎌倉の切通し	北区・破れ蓮さん
		ドン・キホーテ野分の雨へ傘を差す	高岡市・井口良範さん
		雲急ぐ野分迫りし古戦場	船橋市・丸山優龍さん
		七夕やセピア色した君に寄り添う	荒川区・大矢幹夫さん
		哭きながら遺骨を洗ふ夏の雨	大津市・近江菫花さん
		夏の雨スカロボフェアへ行く途中	高梁市・森野みどりさん
		未だ空の青さを知らぬ飛蝗の子	さいたま市・木村隆夫さん
		木像や痩せ細りたる夏の雨	須崎市・野中泰風さん
		花合歓や夕空あやすやうに風	横浜市・花瀬玲さん

小中学生の部	特選	音がなる一つの紅葉落ちていた	江東区立枝川小学校5年・まちさん
	選評	歩いていてふと耳に触れたかすかな音。その正体が一枚の紅葉だった瞬間の静かな驚きがよく出ている。「一つの」と数えたことで紅葉の存在が際立ち、秋が深まりゆく景の繊細な感受性が生き生きと伝わる。	
	入選	ミンミンと母より先に朝がくる	第五峡田小学校5年・ハイGO!さん
		せみがなく夏限定の合唱団	第一中学校2年・羽佐田依吹さん
		声えんでかきけすふあんと夏の雨	第三瑞光小学校3年・ひざわひまりさん
		渓谷の瀬音に目覚め合歓の花	倉敷市立東中学校1年・ののはなさん
		どくのはっぱさわった夏にうみへいく	第四峡田小学校1年・木村芽以さん
	佳作	無音にも満ちゆく蝿のしぐれかな	桜蔭中学校1年・稲葉元那さん
		かき氷食べたら舌がびっくりだ	第四峡田小学校4年・岸勇陽さん
		天空に竜がはばたき天高し	第二峡田小学校5年・雷どらさん
		見上げると虹がかかった夏の雨	大門小学校6年・Kさん
		紅葉の葉風ふきひらり旅に出る	第四峡田小学校4年・関根愛莉さん
		月昇り葉を閉じ眠る合歓の花	大門小学校6年・Xさん
		風死すも涼しげに鳥天翔ける	第四峡田小学校4年・吉田茉由さん
		うろこぐもうちゅうにいっぱいあるのかな	第七峡田小学校1年・玉玉さん
		夏の雨急に鳴り出すタブレット	一燈園小学校5年・太田慈さん
		夏の雨窓辺に凛と心澄ます	入間市立黒須中学校1年・こもれび。さん

第39回 あらかわ俳壇

投句数	1223句（一般の部985句/小中学生の部238句）
投句者数	361人（一般の部160人/小中学生201人）
兼題	吊し柿、神の旅、鍋料理、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏（荒川区俳句連盟会長）
期間	令和7年10月1日から12月31日

一般の部	特選	彗星の軌道をなぞりし神の旅	荒川区・犬さん
	選評	神の旅という古来の信仰行事に、現代的かつ宇宙的なスケールを重ねた発想が見事です。「彗星の軌道をなぞる」という表現が、神々の移動を天体の運行になぞらえ、悠久の時間と空間を感じさせます。伝統と現代の融合が自然に成されており、詩的想像力の豊かさに心打たれました。	
	入選	介護終え一時の幸や吊し柿	須崎市・野中泰風さん
		健診の終へて刈田の広さかな	柏市・谷口紀子さん
		枯山水箒目直し神送る	さいたま市・木村隆夫さん
		水音の玲瓏として秋の声	北区・破れ蓮さん
		鈍色の空を切り裂く鰤起し	船橋市・安田蝸牛さん
	佳作	毛糸編む捩れし想ひ編み込んで	荒川区・鈴木真理子さん
		戸締りは狛犬任せ神の旅	江東区・三田忠彦さん
		喜寿うれし熟成続く吊し柿	荒川区・若林清子さん
		末っ子は即立候補鍋奉行	練馬区・鈴木しおりさん
		恋ごころ届かぬ所以神の旅	清水町・春爺さん
		極楽よ露天風呂から見る花火	荒川区・村松尚子さん
		斑鳩の風を纏いし吊るし柿	江戸川区・羽住博之さん

小中学生の部	特選	こがらしとあつきぼくらの鬼ごっこ	第四峡田小学校4年・小島寛史さん
	選評	木枯らしという冷たい風と、「あつきぼくら」の対比が見事です。寒さの中でも元気に遊ぶ子どもたちの姿が目に浮かび、季節と感情がうまく溶け合っています。リズムも心地よく、印象に残る一句です。	
	入選	かみのたびくもをかきわけどこへゆく	お茶の水女子大学附属幼稚園年長・しょうばしょうさん
		秋の山葉っぱの色のパレットだ	第四峡田小学校4年・吉田茉由さん
		秋空に日ざしまぶしきかんらん車	船橋市立峰台小学校5年・もんさん
		燃え尽きて枯れて散りゆく彼岸花	大門小学校6年・村中杏実さん
		神の旅満天の夜に里帰り	文京区立千駄木小学校4年・森田美友さん
	佳作	栗ごはん口に広がる欲深さ	大門小学校6年・高橋芽生さん
		うぐいすと下田の海と波の音	第七峡田小学校4年・たまたまNo.3さん
		秋の夜キラキラ光る願い事	第三峡田小学校5年・中島美紗さん
		冬終りどこか切ないこの季節	第四峡田小学校4年・関根愛莉さん
		神の旅雲に乗り継ぎ波に乗り	倉敷市立東中学校1年・野のはなさん
		赤とんぼ赤い夕日に飛んでいく	第峡田小学校5年・嶋田律さん
		風の音渡り鳥来て変わったね	大門小学校6年・岩﨑優翔さん
		あきのゆうきらきらひかりゆめのよう	第二峡田小学校1年・うえだなほさん
		木の色がまっかにそまる秋のころ	峡田小学校3年・かのさん
		スイミングごうかくしたいひらおよぎ	汐入小学校1年・えがしらかずまさん

第40回 あらかわ俳壇

投句数	1528句（一般の部1441句／小中学生の部87句）
投句者数	336人（一般の部287人／小中学生の部49人）
兼題	初旅、水仙、陽炎、当季雑詠
選者	対馬康子氏（現代俳句協会副会長）
期間	令和8年1月1日から3月31日

一般の部	特選	光ならよかったのにあの桜	荒川区・嶋田仁美さん
	選評	「あの桜」に、届かなかった記憶がにじむ。「光ならよかったのに」という願いは切実でありながら説明に閉じず、桜を喪失や憧れの象徴へと変えている。静かな余韻が深い。	
	入選	春風や一斉に鳴くフラミンゴ	品川区・蛭田恒美さん
		初旅や駅の時計に息合わす	北区・仲田松翁さん
		陽炎に誘はれて踏む古城かな	横浜市・猪狩鳳保さん
		陽炎のそのまま海へ坂下る	江戸川区・相場恵理子さん
		陽炎や青春微炭酸の朝	横浜市・川蝉小鈴さん
	佳作	馬の眼の澄める岬や野水仙	横浜市・花瀬玲さん
		陽炎の道や行きたる巡礼者	須崎市・野中泰風さん
		陽炎にゐる一人或いは二人	加古川市・野口雅也さん
		陽炎や行方知れずの父の服	神戸市・立花紅さん
		詩の女神俳の男神と陽炎ひて	町田市・尾形道夫さん
		陽炎や影だけ先に帰りゆく	仙台市・怜翠さん
		犬ふぐり俯く吾子にほのとあり	多摩市・杉浦孝子さん
		けがれなき水の集ふや寒造	福山市・リカさん
		初旅の後淡々と米を研ぎ	新宿区・深澤菜の花さん
		なゐの跡残れる能登の忘れ雪	木更津市・安田蝸牛さん

小中学生の部	特選	十字路の踊る陽炎ペダル漕ぐ	高知県立高知国際中学校1年・白初さん
	選評	十字路に揺れる陽炎を「踊る」と捉えた感覚がお手柄。十字路で分かれる道。どこへ行くのかな。ペダルを漕ぐ動きと陽炎の揺らぎが一つになって、春の午後のあたたかさまで見えてくる素敵な句です。	
	入選	満月と肉まんとぼく塾帰り	第四峡田小学校4年・小島寛史さん
		さみしき春友達は皆画面のむこう	ワシントン日本語学校（中学）1年・ロビンソン慧さん
		春の海青い世界の冒険だ	ワシントン日本語学校（小学）6年・オスィフシェン海さん
		黒板にまだ残りたる春の雪	西大和学園中学校1年・植木菜南さん
		ほとけさまさざんかおちるひらひらり	お茶の水女子大学附属幼稚園年長・しょうばしょうさん
	佳作	観覧車ゆっくりのぼる春の花	練馬区立大泉第三小学校3年・堀内百花さん
		水仙や香りが泳ぐ祖母の庭	さいたま市立大宮南中学校1年・福島幸之介さん
		春まぢか積み木のタワー完成し	中学校2年・内山碧さん
		小径ゆく水仙の白踏まぬよう	倉敷市立東中学校1年・野のはなさん
		明の雪銀の世界を造り出す	第二峡田小学校5年・雷どらさん
		陽炎や溶けているアイスのよう	多摩市立多摩永山中学校1年・小島理紗子さん
		花びらが風に吹かれて初旅へ	第四峡田小学校4年・関根愛莉さん
		石けってすすむ先にはつくしんぼ	松山市立東雲小学校2年・河野瑞仁さん
		初めてのじゅけん勉強冬の夜	第二峡田小学校4年・舟山瑛理花さん
		ゆうえんちはるのあらしでかしきりだ	尾久宮前小学校1年・菊地優希・優浜さん